

平成24年第5回経営会議概要

- 1 開催日時 平成24年9月19日（水） 8：30～9：45
- 2 開催場所 プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要 以下のとおり

議題1 平成25年度当初予算要求基準及び平成24年度12月補正調製方針について

【松浦副課長】（資料1に基づき説明）

歳入の見込みについては、現時点のものであり、今後、大きく変動する可能性もある関係で未定稿としている。

【北岡健康福祉部長】

- ①歳出の人件費が40億円増加している積算根拠は。
- ②節減制度は、具体的にどう変わるのか。

【松浦副課長】

- ①給与抑制措置の条例上の期限を考慮して、一般職32億円、管理職8億円増をしている。
- ②来年度から包括配分制度が廃止されるのに伴い、平成24年度12月補正の節減分は、政策的経費の優先度判断Aの要求上限額に上乗せして要求できることといたしたい。

【稲垣総務部長】

12月補正で、財源をねん出していかなないと当初予算が編成できない状況であるので各部局には努力をお願いしたい。個別にお願いをさせていただくこともある。

また、特定課題枠の内容は、知事と調整をしていかないといけませんが、市町からの要望の強い河床掘削などの特定の課題に対応する事業を考えている。

【松浦副課長】

今後の予定について、平成25年度当初予算調製方針、平成25年度当初予算要求にあたっての基本的事項については、本日お示しした要求基準を踏まえて、10月4日の政策会議にお諮りしたい。

【鈴木知事】

厳しい状況ですが、頑張っていきましょう。

議題2 平成25年度経営方針（案）について

【大橋企画課長、森行財政改革推進課長】（資料2-1に基づき説明）

今後、「秋の政策協議」を踏まえ、記述を精査し、10月4日の政策会議で経営方針（案）として取りまとめたい。議会へは10月上旬に説明する予定。

【藤本地域連携部長】

経営方針（案）の中に記述されている「組織運営の基本的な考え方」と組織機構及び職員定数調整方針との関係性は。

【田中総務課長】

経営方針（案）に記述される「組織運営の基本的な考え方」に基づき、組織機構及び職員定数調整方針を示していくという関係である。

【藤本地域連携部長】

経営方針は、平成25年4月からの方針であるのに対して、調整方針は年度内の方針である。なぜ、経営方針（案）の中に「組織運営の基本的な考え方」が記載されるのかがわからない。

【鈴木知事】

経営方針で平成25年度の取組を示すにあたって、それを裏付ける財政運営や組織運営の考え方についてもあわせて示さないと、県民からわかりにくいし、無責任である。このような考え方のもと、平成25年度の経営方針からは、財政運営や組織運営の考え方についても一体的に記述することとしたため、このような形になっている。

【伊藤総務部副部長】

経営方針（案）の記述は現在進行形であり、経営方針（最終案）では4月からの組織体制が記述されることになる。

【小林南部地域活性化局長】

1頁の「『平成25年度三重県経営方針』の位置づけ」の記述は、財政が厳しいため地域機関の見直しを行う、というように読める。地域機関の見直しは現場重視の考え方を進める目的で行うものではないのか。

【山川雇用経済部長】

私も同様の考えである。地域機関の見直しは、住民サービスを向上させるために、県民に近い部署を充実させる目的で行うものである。行政改革のイメージだけで組織改正を捉えるのはいかがか。

【山口市スポーツ推進局長】

8頁の「『選択・集中プログラム』以外に特に注力する取組」として、3項目掲げられているが、来年度当初予算編成にあたっては、これらの項目に対し、どれだけ配分されるのか。

【稲垣総務部長】

財政フレームが確定していないので、今の段階では額については答えられ

ない。

【山口スポーツ推進局長】

「『選択・集中プログラム』以外に特に注力する取組」の記述においては、既に「選択・集中プログラム」に位置づけられている事業が、特出しの特出しに見えないように工夫した方が良い。

【山口戦略企画部長】

「選択・集中プログラム」の中で対応できる課題については、そのプロジェクトの中で対応すべきである。「『選択・集中プログラム』以外に特に注力する取組」は、社会情勢の変化や新たな仕組みの創設に対応するために「選択・集中プログラム」以外に注力する取組として整理している。

【真伏教育長】

「『選択・集中プログラム』以外に特に注力する取組」の項目として掲げられている「子どもの命を守る取組」は、いじめや児童虐待への対応であるとの説明があったが、これらは既に「選択・集中プログラム」に位置づけられているものである。「選択・集中プログラム以外」という表現ではなく、「特定の政策課題」など柔軟な表現としてはどうか。

【山口戦略企画部長】

「選択・集中プログラム」の主たる取組として位置づけられているものは、該当しないと考えている。

【真伏教育長】

経営方針（案）が固まる10月上旬は、予算要求がまだなされていない時期である。その段階でどこまで書き込んでいくイメージなのか。

【山口戦略企画部長】

項目を含め、記述内容については検討しているところである。

【山川雇用経済部長】

3頁からの「『選択・集中プログラム』の展開」では、各プロジェクトの注力する取組を記述していくとのことだが、予算要求もしていない段階で、取組を具体的に書くことは難しい。方向性しか書けないのではないか。

【大橋企画課長】

具体的な取組を書けるものは書いていく。予算要求前なので、10月の案では、方向性の記述に留めるものもあるが、最終案では具体的な取組を記述していくことになる。

その他議題 「新しい公共推進指針（仮称）」中間案について」

【鳥井課長（男女共同参画・NPO課）】

これまでの協働の実践と課題を踏まえて、「新しい公共推進指針」（仮称）

の中間案を策定した。これに関して「ねらい」「手法」「経緯」そして中間案の「体系」について説明の後、「今後の予定」と中間案自体の概要説明を行った。本日中に、各部に対して、意見集約依頼を行う予定。

(質疑なし)